

藍住町中学生海外派遣事業を終えて

藍住東中学校 教諭 河野 智美

今回の海外派遣は、私たちにたくさんの出会いと経験をもたらしてくれました。まず、同じ町内の2つの中学校の生徒たちの出会いです。事前研修から始まり、この10日間で、12人がとても仲良くなりました。私たちだけで移動や活動するときには、にぎやかにおしゃべりやゲームをして、とても楽しそう



でした。次に、オーストラリアでは、ホストファミリーや学校生活を共に過ごすバディとの出会いがありました。しかし、オーストラリアではお互いの言葉の壁があります。それをどう乗り越えていくのか、生徒たちの不安は大きかったことでしょう。初日は緊張感も大きかったと思いますが、その緊張感を少しずつ取り除いてくれたのは、ホストファミリーや年上のバディの存在でした。彼らは、出会った時からとても明るく、そして優しく私たちに接してくれたのです。

学校では、午前中はダニエル先生による英語の授業がありました。滞在中に必要な英会話を、順を追って楽しく勉強させてもらいました。最初はもっと大きな声でと言われることも多かった生徒たちでしたが、だんだんと声も出るようになり、自分からダニエル先生に聞くようにもなっていました。私も日本語での手助けをしすぎないように、できるだけ日本語に頼らず自分たちの力で理解していけるようにところがけました。難し



い表現や、まだ習っていない文法が出てくることもありましたが、先生が簡単な表現で説明してくれることで推測したり、辞書で調べたり、自分たちでああでもないこうでもないと考えたりして答えを導き出し、その課程でお互いにコミュニケーションもとれていたと思います。

学校での生徒たちは、オールイングリッシュで行われる英語の授業も不安だったと思いますが、バディの高校生との会話も不安だったと思います。しかし、初めて出会った時の緊張感は、午後からの体育の授業のダンスでかなりほぐれていました。中学校の授業ではやったことのないノリノリのダンス。踊りながら笑顔がはじけ、うまくいけばハイタッチをし、先生方も一緒に踊りとても楽しく生徒たちの心をほぐしてくれました。また、モーニングティーやランチのときの会話もバディとの距離を縮める良い時間でした。

この海外派遣で子供たちが有意義な研修をして無事に帰国できるよう、できる限りのサポートをすること、それが今回私の一番の役割であり目標だと考えていました。そして、私も笑顔でたくさん英語を使ってコミュニケーションをとり、学校でのプログラムから日本での授業に生かせることを見つけてきたいと考えていました。

“Smile and be happy!” これは、もう20年以上前に、あるALTからもらったメッセージです。忙しさから笑顔がなくなっていた私に、笑顔のイラストとともにこのカードを渡してくれました。今回、緊張で少し堅くなった私たちをほぐし、さらに積極的なコミュニケーションを促してくれたのは、オーストラリアの人々の明るい笑顔でした。オーストラリアで幸せな時間を過ごせたことに感謝し、これからの生活にこの経験を生かしたいと思います。

